

北見市における景気動向調査報告書

< 第 II 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 令和元年10月15日

(2) 調査対象期間 令和元年7月～9月期実績および令和元年10月～12月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30社	26社	86.7%
建 設 業	30社	24社	80.0%
卸 売 業	30社	26社	86.7%
小 売 業	35社	23社	65.7%
サービス業	25社	18社	72.0%
合 計	150社	117社	78.0%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 況

《 全 体 の 動 き 》

令和元年度第Ⅱ四半期<7月～9月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」24.8%、「悪化企業」37.6%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△12.8となっており、前年同期比(△21.7)との比較では8.9ポイントの好転傾向を示しました。また、前期調査<令和元年度第Ⅰ四半期>と比較してみると前回△24.8→今回△12.8と12.0ポイント好転を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値0.0、建設業D・I値△20.9、卸売業D・I値△23.1、小売業D・I値△17.3、サービス業D・I値0.0となっており、前年同期調査と比較すると、サービス業で22.2ポイント、卸売業で18.6ポイント、小売業で8.8ポイント、製造業で5.5ポイントの改善が見られましたが、卸売業、小売業のマイナス値は未だ高く、予断を許さない状況が続いています。また、建設業は12.2ポイント悪化しており、厳しい状況が伺えます。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」14.5%、「悪化企業」41.9%でD・I値△27.4と、前年同期見通し(△26.4)に比べ1.0ポイントの悪化となり、厳しい状況が続く来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」30.8%、「減少企業」34.6%、D・I値△3.8と前年同期に比べ1.7ポイントの好転となりました。

採 算

前年比で「好転企業」23.1%、「悪化企業」34.6%、D・I値△11.5と前年同期に比べ10.7ポイントの好転となりました。

来期見通し

業況D・I値△15.5、生産高D・I値△15.4、資金繰りD・I値△15.4と、前年同期に比べ全てのD・I値で1ポイント前後の好転を示しました。

2) 建 設 業

完 成 工 事 高

前年比で「増加企業」16.7%、「減少企業」50.0%、D・I値△33.3と、前年同期に比べ11.5ポイントの悪化となり、高いマイナス値を示しました。

採 算

前年比で「好転企業」12.5%、「悪化企業」41.7%、D・I値△29.2と、前年同期に比べて20.5ポイントの大幅な悪化を示しました。

来期見通し

業況D・I値△41.7、完成工事高D・I値△37.4、資金繰りD・I値△12.5と前年同期と比べ全て悪化傾向を示し、非常に厳しい来期見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」23.1%、「減少企業」34.6%、D・I値△11.5と前年同期と比べ38.5ポイントの大幅な好転を示し、未だマイナス値ではあるものの、改善の兆しが伺える結果となりました。

採算

前年比で「好転企業」11.5%、「悪化企業」42.3%、D・I値△30.8と前年同期に比べ10.9ポイントの好転を示しました。

来期見通し

業況D・I値△27.0、売上高D・I値△19.2、資金繰りD・I値△7.7と前年同期に比べすべてのD・I値で好転を示す結果となりました。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」21.7%「減少企業」43.5%、D・I値△21.8と前年同期に比べ0.1ポイント悪化とほぼ横ばいの結果となりました。

採算

前年比で「好転企業」21.7%「悪化企業」43.5%、D・I値△21.8と前年同期から17.3ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△4.3、売上高D・I値△17.3、資金繰りD・I値△13.0と前年同期と比べ全てのD・I値で好転傾向を示しました。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」27.8%、「減少企業」27.8%、D・I値0.0と、前年同期に比べ27.8ポイントの好転を示し、マイナス値から改善となりました。

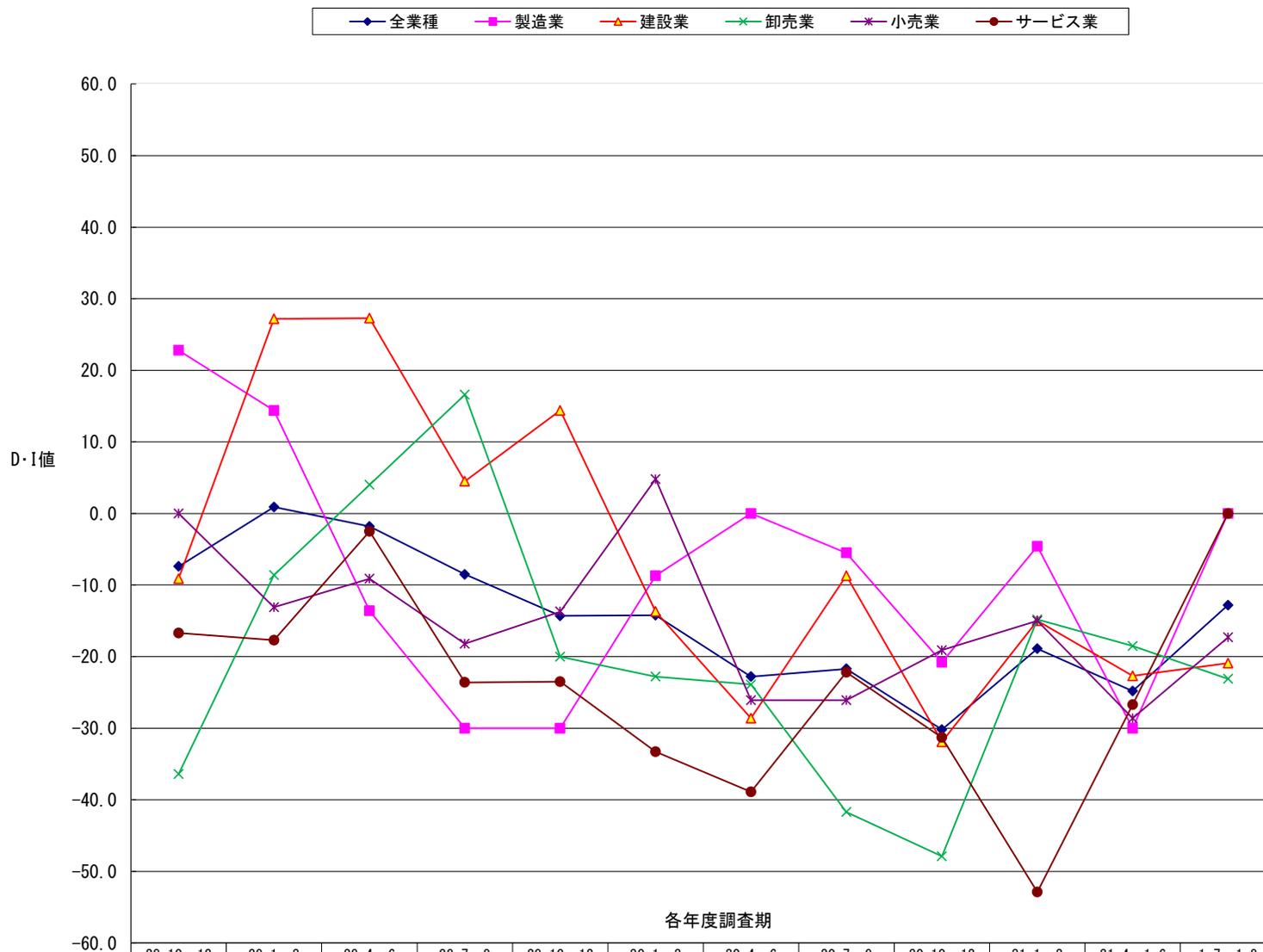
採算

前年比で「好転企業」22.2%、「悪化企業」27.8%、D・I値△5.6と前年同期に比べ、5.5ポイントの好転を示しました。

来期見通し

業況D・I値△55.6、売上高D・I値△55.6、資金繰りD・I値44.4と前年同期に比べ全てのD・I値で大幅な悪化傾向を示し、今期の結果から一転、非常に厳しい来期見通しとなっています。

各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



	28.10~12 平成28年度 Ⅲ	29.1~3 平成28年度 Ⅳ	29.4~6 平成29年度 Ⅰ	29.7~9 平成29年度 Ⅱ	29.10~12 平成29年度 Ⅲ	30.1~3 平成29年度 Ⅳ	30.4~6 平成30年度 Ⅰ	30.7~9 平成30年度 Ⅱ	30.10~12 平成30年度 Ⅲ	31.1~3 平成30年度 Ⅳ	31.4~1.6 令和元年度 Ⅰ	1.7~1.9 令和元年度 Ⅱ
◆ 全業種	-7.4	0.9	-1.8	-8.5	-14.3	-14.2	-22.8	-21.7	-30.2	-18.9	-24.8	-12.8
■ 製造業	22.8	14.4	-13.6	-30.0	-30.0	-8.7	0.0	-5.5	-20.8	-4.6	-30.0	0.0
▲ 建設業	-9.1	27.2	27.3	4.5	14.4	-13.7	-28.6	-8.7	-31.9	-15.0	-22.7	-20.9
× 卸売業	-36.4	-8.6	4.0	16.6	-20.0	-22.8	-23.9	-41.7	-47.9	-14.8	-18.5	-23.1
* 小売業	0.0	-13.1	-9.1	-18.2	-13.7	4.8	-26.1	-26.1	-19.1	-15.0	-28.6	-17.3
● サービス業	-16.7	-17.7	-2.5	-23.6	-23.5	-33.3	-38.9	-22.2	-31.3	-52.9	-26.7	0.0

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
建 設 業	人 材 不 足	人 件 費 増	諸 経 費 増	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少
卸 売 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 件 費 増	同 業 者 間 の 競 合
小 売 業	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
サ ー ビ ス 業	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少
合 計	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

全業種で見ると、「得意先減少」と「同業者間の競合」が入れ替わったものの、3位以上に変動はなく、地域の中で慢性的な課題となっています。

業種別でも「諸経費増」「人材不足」が高い順位となっており、原油高の影響などによるコストアップや売り手市場の深化の影響が見られます。唯一小売業では「得意先減少」がトップ回答となっており、他業種にはない業界の課題となっていることが伺えます。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(製造) ○仕入先の納期遅れ

(建設) ○来期完成の工事受注が多く、売上減の中でも仕入支出が多い
○資材、運搬費の高騰

(卸売) ○人材不足、若手育成への不安
○一部商品力の低下

(小売) ○最低賃金引き上げによる人件費増
○消費増税に伴う設備経費増
○得意先の高齢化、仕入メーカーの廃業に伴う客足減少

業況

※太字アンダーラインは複数企業が回答

- 製造業 ⇒ 好転（農産物加工、製麺、ビール、鋳物、一般機械、建設金属）
悪化（食肉加工、石材、農業機械）
- 建設業 ⇒ 好転（**電気**、舗装土木）
悪化（**土木建築**、建築、土木、板金）
- 卸売業 ⇒ 好転（米穀、塗料、一般菓子・玩具、事務機器・事務用品）
悪化（製菓機器、製材、食品、ユニフォーム・作業服、家電、種苗・肥料・農業資材、建築金物）
- 小売業 ⇒ 好転（眼鏡、農業機器、自動車、家電、家具）
悪化（**衣料品**、酒、青果、時計・貴金属、火薬、食料品・雑貨）
- サービス業 ⇒ 好転（ホテル（宴会・宿泊）、ホテル（宿泊）、弁当仕出し）
悪化（クリーニング、建物清掃、理容）